

平成 18 年度ホタテガイ採苗情報（第 2 報）

平成 18 年 5 月 8 日

発行：岩手県水産技術センター

協力機関：沿岸地方振興局水産部

「付着稚貝は少ない状況です。」

1 ホタテガイ生殖腺指数の推移

4 月 27 日に山田湾、5 月 2 日に唐丹湾で生殖腺調査を行いました。

山田湾では産卵を終了した個体が多くみられました（生殖腺指数の平均値：10%）。唐丹湾では多くの個体が依然として卵を持っており、産卵は緩やかに継続しています（生殖腺指数の平均値：13%）。

2 ラーバの出現状況

5 月 2 日に唐丹湾でラーバ調査を行いました。

ホタテガイラーバの出現数は、200 μ m 未満が 25 個/トン、200 μ m 以上が 1 個/トンと前回調査時（合計 6 個/トン）より増加しましたが、小型のラーバが中心となっています。

調査時の水深 10m 層の水温は 7.2 と、前回調査時より 0.3 上昇しましたが、平成 9～17 年の平均値（8.4）より 1.2 低い値で推移しています。

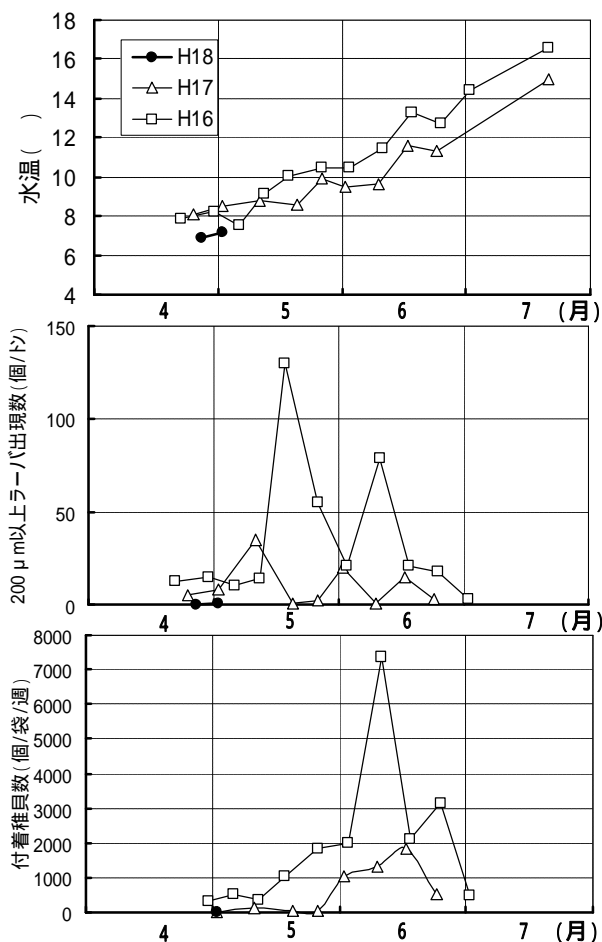
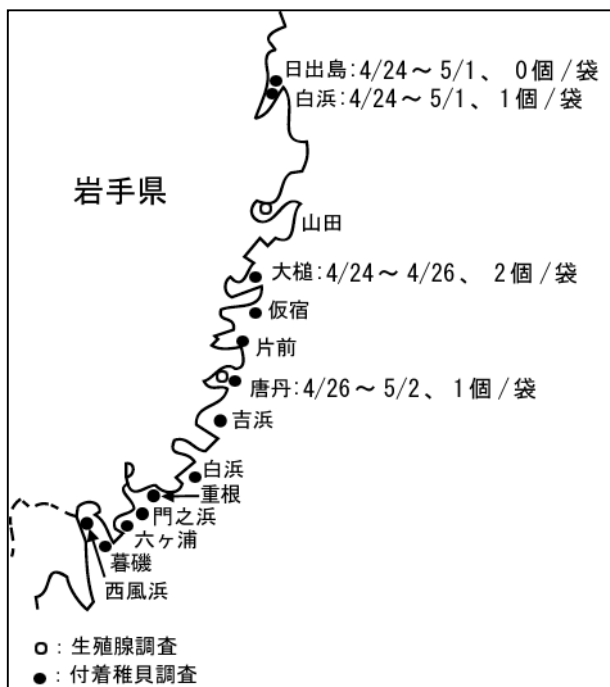


図 唐丹湾における水深10m層水温およびホタテガイラーバ・付着稚貝の出現状況

3 試験採苗器による付着稚貝調査

4 月 26 日以降の調査において、宮古と釜石地区で付着稚貝が確認されました。しかし、付着数は何れの定点でも 2 個/袋以下と非常に少ない状況です。

宮古地区では 200 μ m 以上の大型のラーバが増加してきていますが、その他の地区では 200 μ m 未満の小型のラーバが中心です。試験採苗器への付着稚貝数が少なく、水温も低い状況にあることから、採苗器の投入適期ではないと考えられます。

次報は、5 月 11 日頃発行する予定です。